

平成30年度 博物館セミナー 実施報告

1 講座のねらい

本館のテーマである、川と人々とのかかわりについて興味・関心を深めるために、利根川・江戸川流域の歴史や民俗・自然などを分かりやすく解説する。

2 実施状況

第0回（パネル展「高瀬船」関連講演会） 平成30年 6月 3日（日）

松井哲洋氏「利根川高瀬船にみる知恵と工夫」

第1回 8月26日（日） 石田年子氏「下総・庄内領（野田市）に見る大杉信仰の繁栄」

第2回 11月25日（日） 市川幸男氏「カスリーン台風から70年」

第3回 12月16日（日） 新井浩文氏「築田家文書の世界VI—系図・系譜類と写本—」

第4回 平成31年1月13日（日）

松丸明弘氏「利根川と江戸川の舟運—川船、河岸、河岸間道—」

第5回 2月17日（日） 岩槻秀明 氏「冬こそ、生きもの探しをしてみよう！」

第6回 3月17日（日） 中村正己 氏「関宿藩年中行事を読み解く」

3 講座の様子



4 参加者の声

- ・船の実物模型を使うなどしていただき、具体的なことがよく分かった。
- ・講師の情熱が伝わってきた。大学の先生とは違うおもしろい講義であった。
- ・すぐ近くの地域の事でも知らないことが分かり、見に行ってみたいと思った。
- ・利根川の上流から下流まで、江戸川のはじまり、江戸川をはじめ関東の川がよく分かった。
- ・歴史を紐解く勉強になった。
- ・地域の歴史、関宿藩の重要性、河川の役割などがよく理解できた。
- ・江戸時代の行事や暮らし方を知る事ができて面白かったし、楽しかった。
- ・一人の講師1回ずつでなく、シリーズだと、もっと多く学ぶことができ楽しいと思う。

5 成果と課題

県域を越えた多くの参加者があった。リピーターが多い一方で、初めての参加者も一定数おり、一度参加してその後も継続して参加される方が多いようである。実際、参加者の満足度は極めて高いが、これは、関宿に関連する様々な専門の講師が揃っており、地元の幅広い知識が得られるためであろう。

今後も魅力ある内容のセミナーを設定してリピーターの方に足を運んでいただく一方、インターネットなどを通じて、広く広報を行っていきたい。



講座名

かつうら落語教室～笑いの世界へようこそ～

講座ねらい

コンセプトは『聴く側』から『演じる側』へ。プロの落語家『入船亭 扇海』氏を講師として招き、日本の伝統芸能に触れる機会を提供する。同時に落語を通して世代間を越えたコミュニティ形成の一助とする。

参加者の声

プロの落語家から直に落語を習うことができると非常に好評。

成果

年齢と性別の垣根を越え、多くの受講希望者から申込をいただきました。下は中学生、上は90代と幅広い世代の落語好きが集まり入船亭扇海氏の指導を受け、最終回では Küste ホールを会場に『成果大発表会（木戸銭0円）』を開催。受講生たちは練習した『嘶』を観客の前で披露し多くの拍手を頂きました。講座終了後、親睦を深めた受講生たちが落語サークル『粹でイナセな素人落語会』を発足。彼らの合言葉「勝浦の笑いは素人が作る！」をモットーに日夜研鑽を重ねています。自主的に発表会を開く等精力的に活動し、最近では地元住民から寄席の依頼を頂くまでに…。

今後の課題

教室を継続するうえで、如何にしてマンネリ化を防ぐかが重要であると考えています。他の落語サークルとの交流会や市外での発表の場を設ける等、様々な方向から『落語の魅力』を取り入れていく予定です。

発酵の里 ぶくぶく講座

ぶくぶく 講座とは

平成29年度から開始した「発酵文化振興事業」。発酵文化の素晴らしさを、実際の体験を通して町内外に発信！特に、子ども達の食育において「食」の楽しさ、大切さを学んでもらう講座です。年に数回は、全国の発酵のスペシャリストを講師に「発酵」を学びます。

神崎産無農薬在来大豆
発芽玄米糀・伝統海塩と原料にも
こだわった味噌づくりです。

「素材を超える調理法はない！」
厳選された素材で仕込む味噌は
絶品！



鰹節の目利き人
を講師にお迎えし、本枯れ節
と、真昆布を使っての「出汁取り教室」。
めっきり見かけなくなった削り器で
自分で削って出汁をひきます。



参加者の声

- ・発酵食品の美味しさにハマりました。
- ・仕込むだけでなく、発酵の仕組みや、調味料の選び方もとても参考になりました。
- ・親子で参加しましたが、小学生にとってもわかりやすく楽しかったです。
- ・知らなかった事がたくさんあり、「身体は食べたものでできている」ということが印象的でした。

なかなかハードルが高いと思われるがちな「ぬか漬け」ですがジップロックに仕込む、簡単ぬか床を使い、パプリカやアボガド…変わりダネにも挑戦！！



ポスター
は手書き

その日の朝に
収穫した跳子産キャベツと
こだわりの塩だけで仕込む、シンプルな
ザワークラウト！自分の家で完成させる
のも楽しみのひとつです。



成果と課題

- ・月に1～2回の開催ですが、町内外にもだいぶ周知されてきました。(町内の参加を増やしたいです)
- ・高校の家庭科の先生が参加して下さり、ご自分の授業でも、実践され「発酵の循環」がうまくできていると感じました。
- ・行政、道の駅、町の農家や蔵元と連携し、町民が元気になるような講座にしていきたいと思います。

2019年11月28日

昭和学院短期大学 生涯学習委員会

「ちば講座アワード」エントリー講座実施報告書

2019年度ちば講座アワードにエントリーした「昭和学院短期大学公開講座」の終了報告をいたします。

I 講座のねらい：地域住民の教養を高め、地域文化の向上に資るために、本学の知的資源を地域社会に開放し、生涯学習の推進を図る。また、地域社会との交流を深め、開かれた短大への具体的な取り組みとする。

II 講座の概要

テーマ：黄門様と旅する鎌倉

講 師：昭和学院短期大学人間生活学科 佐藤 智広 教授

内 容：中世日本文学を専門とし、特に鎌倉文学への造詣が深い

講師による鎌倉文学講座

実施日：2019年4月～8月 毎月最終土曜日午後 全5回

受講者：5回のべ受講者数 161人

III 参加者の声

最終回に受講者にアンケートを行いました。自由記述の形で回答をいただいた参加者の声としては、

●今後も継続して欲しい ●回数を多くして欲しい ●現地（鎌倉）での課外講座を望む ●高齢者でも楽しめる ●詳しい資料や古地図を見せてもらえるのがありがたい、などがありました。

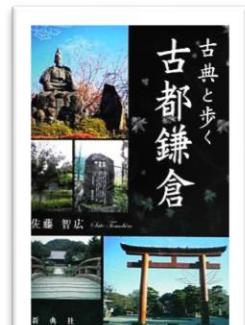
IV 講座の成果と今後の課題

今年で5年目となる鎌倉文学講座は複数年参加してくださるリピーターが大半で、初年度からずっと参加してくださる方も大勢おられます。また講座への満足度も高く、地域の方の生活や知識の向上に役立っていることが伺えました。

今後の課題としては、次のようなことが挙げられます。

- ① 公開講座の広報活動は、本学のホームページや学内に設置してあるポスターやちらし、口コミによるところが大きい。より多くの人に認知してもらうための広報ツールを考える必要がある。
- ② 文学散歩（現地での講座）への要望は多いが、それは難しい。
- ③ 本講座はファンも多く、今後の継続への期待も大きい。これを別のテーマや他の生涯学習などにどうつなげてゆくかという課題がある。

V 講座の様子



講師著書

回数	内 容
1	朝夷切通から鎌倉に入る
2	英勝寺から源氏山、海蔵寺・寿福寺へ
3	鶴岡八幡宮から覚園寺・杉本觀音へ
4	大町を抜けて材木座海岸へ
5	由比ガ浜から大仏へ

第一回「ちば講座アワード」エントリー講座

「ちは新発見・再発見～地理・歴史探訪」シリーズ 実施報告書

■主催者 敬愛大学（<https://www.u-keiai.ac.jp/>）

■ねらい 本講座は千葉県を地理や歴史的視点で見直し、さらに現地にも出かけ、ふるさと「ちば」について新発見・再発見をしていく「大人のための社会科講座」と位置づけています。

■講座概要 本学非常勤講師の鎌田正男講師による、**敬愛大学生涯学習センター**の人気講座の一つです。毎回スライドを見ながら座学で学ぶ3回の講座を行い、4回目には現地探訪を実施します。第1回シリーズでは「房総の天然記念物や鴨川市」を取り上げ、今話題のチバニア、誕生寺と清澄寺、観光地鴨川市の魅力などを中心に学習、現地探訪は誕生寺と鯛ノ浦を昼食付で訪ねました。第2シリーズでは台風被害が出る前の鋸山・金谷地区やフェリーでの東京湾一周、また第3シリーズでは房総の村と手賀沼北岸を巡りました。

■ 今年度の講座

開講時期		テーマ	現地踏査場所
第1シリーズ	4/13～5/18	房総の天然記念物(誕生寺、清澄山)と鴨川	誕生寺、鯛ノ浦
第2シリーズ	7/6～7/27	内房・東京湾沿岸(袖ヶ浦、富津、東京湾の交通史)	金谷、鋸山、東京湾一周
第3シリーズ	10/19～11/9	印旛沼・手賀沼(房総の村と古墳群、木下街道、手賀沼)	房総の村、手賀沼北岸
第4シリーズ	1/18～2/8	船橋・習志野地域(京成電鉄、習志野と谷津)	谷津干潟、船橋の歴史地区

(第4シリーズは1月中旬～2月上旬に開催予定)

参加者は、毎回10～15名。各シリーズ半数程度は毎シリーズ継続的に参加している方々で、健脚を競って熱心に参加されています。昼食は各訪問地の名物をいただくのも、参加者の楽しみのひとつになっているようです。



■今後の展望

自分の住む街・千葉県への理解を深めるためには、実際に足を運んで見聞することが最良の方法と心得、引き続き継続的に講座を行っていく予定です。また脚力に自信がない方のために、現地探訪を行わない座学だけの講座も設置しています。

敬愛大学生涯学習センターでは、今年度年間500以上の講座を設け、年間約2,200名を超える受講生の皆様に学んでいただいています。

敬愛大学では生涯学習センターを人生100年時代の「学び直しの場」「いきがいの場」「つどいの場」と位置づけ、「語学」「国際理解」「教養」「趣味」「社会人スキル」「キッズ」の6分野の講座を設けています。

詳しくは敬愛大学生涯学習センター（☎0120-077-420）にお問い合わせください。

なりた冒険塾 実施報告書

◇主催 成田市中央公民館

◇講座の狙い

自ら学び自ら考える力の育成を図ることを目的とした企画参加型の講座として実施した。

◇講座の概要

土曜日活用事業。市内複数の学校から集まる児童の交流と様々な体験型学習を通して、「公民館でしかできない」経験を得る。

アウトドア、フィールドワーク、フリーテーマの3つの作戦を実行するために、実施日とは別に7回の「作戦会議」と呼称するワークショップ型会議を行い、自分たちの「やりたいこと」を自分たちで決めていき、当日の役割も自分たちで割り振って実行していくことで、「生きる力」を身につける。

◇講座の様子



◇参加者の声

- ・自分たちが考えた企画を、自分たちでやっていくのが楽しかった。
- ・いろいろな体験ができた。
- ・また来年も参加します。

◇成果と課題

6月から12月まで月1回全7回の本事業に加え、5回にわたり作戦会議と呼称した企画会議を実施し、参加者で話し合って自分たちが行う事業内容を決め、実施していった。満足度も88%を超え、当初の狙いは達成できたと考えている。ただ、作戦会議のうち何回かは上手にファシリテートすることができずに結果的に無難な着地点に導いてしまった気がするので、次回は「サポートバット ノーコントロール」でいけたらと思う。

2019年度東邦大学第67回薬学部公開講座「薬草園一般公開および講演会」実施報告書

【主催団体および運営】東邦大学薬学部社会連携委員会

【開催会場】東邦大学習志野キャンパス 薬学部C館C-101 講義室、および薬草園

【開催日時】2019年5月25日（土）薬草園一般公開 10:00～16:00、講演会 13:00～16:00

活動内容	参加人数
講講演会テーマ『人類の英知・東洋医学-元気で長生き-』 講演1「若々しく元気百歳への秘訣 -未病ケアに和漢膳-」 講演2「子どもの元気」	458名
薬草園一般公開	
研究紹介と体験コーナー	

【講座のねらい】

大学の使命である教育研究活動に基づき、地域住民に対する公開講座・健康イベントを開催し、保健衛生、心身の健康の維持・増進の啓発、また社会人の生涯教育を支援することで、地域貢献・支援活動することを目的としている。

【参加者の声（アンケートより抜粋）】

- ・普段知らない事柄を教えてもらえた。今後の健康管理に役立てたいと思った。
- ・毎回興味深い講義が聞けて楽しい。わかりやすい説明で、頭に入ってきやすかった。
- ・難しい薬の話をわかりやすく説明してくれてよかったです。
- ・学問とは無縁の母を連れて二人で参加。母が笑いながら聞き入っていた。私も向学心が高まつた。
- ・図を使いながらの説明があり、わかりやすかったです。手話もあり、多くの人に伝えようという姿勢が感じられた。
- ・薬草園の薬草の一つひとつをとてもわかりやすく丁寧に説明してくれ、感激した。

【成果と課題】

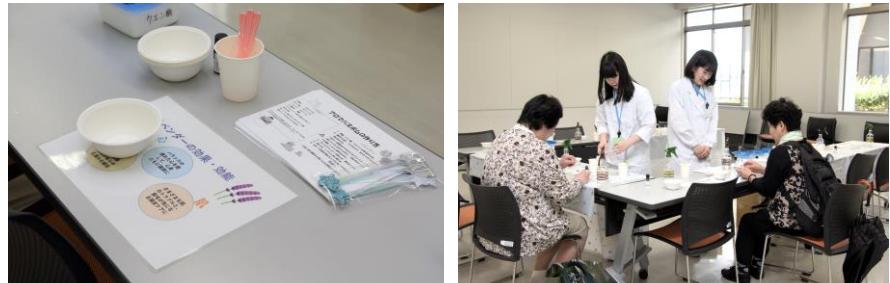
自然科学系総合大学としての特色を活かし、薬学部が生み出した教育研究成果を社会に向けて発信する場として活用されている。教育研究内容の公開のほか、地域住民の心身の健康維持・増進に向けての啓発、生涯教育を支援するものとして、またその時々の社会情勢などに応じタイムリーな情報提供を行う社会貢献・地域連携活動としても成果をあげていると思われるため、引き続き継続していきたい。

【講座の様子（写真等）】

●講演会



●体験コーナー『アロマのバスボム作り』 植物療法研究部（学生団体）



●研究紹介 漢方研究部（学生団体）



●薬草園一般公開



五感で感じる絵本講座

木更津市立岩根公民館

1. 講座のねらい

- ・絵本の世界を五感をとおして体験させることで、子どもの豊かな情操を育む一助とする。
 - ・親子で参加することにより、共通の話題をとおして、親子の絆を深める一助とする。
- ※「絵本を読む、絵本を読んでもらう」だけでなく、「絵本の世界に入していく」ことができたら楽しいだろうなあ！…そんな思いから、五感（聴・視・嗅・味・触覚）で感じる絵本講座を企画した。

2. 講座の内容と様子

- <第1回> 「音楽を聴きながら、絵本の世界に浸ろう！」
 - ・ヴァイオリン、ピアノと読み聞かせ
- <第2回> 「星空を見ながら、絵本の世界に浸ろう！」
 - ・星空の説明とストーリーテリング
- <第3回> 「絵本の中のお菓子を作ってみよう！」
 - ・絵本の読み聞かせ・ストーリーテリングとお菓子づくり
- <第4回> 「自分だけの絵本を作ろう！」
 - ・紙コップシアターの製作



3. 参加者の声

- ・公民館で、こういうことをやってもらえるなんて思わなかった。
- ・ヴァイオリン、ピアノの音楽と、絵本の読み聞かせがとても合っていて素敵だった。
- ・星空の説明がとてもわかりやすく、興味がわいた。
- ・本を読む楽しさを感じた。
- ・まさか本格的なデコレーションケーキをつくると思っていなかつたのでびっくりした。
- ・4回とも全部参加したい。
- ・今後も公民館に足を運びたい。

4. 成果と課題

- ・絵本の読み聞かせやストーリーテリングを行う会はよくある。また、ヴァイオリンやピアノの鑑賞教室もよくある。
そこで、これらをコラボさせたらおもしろいだろうなあという発想から企画した講座だったが、大変好評だった。
- ・年配の方の利用が多い公民館だったため、子どもや若い方の利用を推進したいと思っていたが、多くの親子連れや祖父母も訪れ、親子の会話、家族の会話もはずんだ。
- ・星空とのコラボは、当初、夜の開催を考えたが、天候に左右されることもあり、日中・室内での開催となつた。今後、実際の星空を見ながらの開催を検討したい。

星久喜公民館

「お泊まりIN星久喜」

講座のねらい 小3年～6年生が公民館での宿泊体験や野外炊飯体験を通して、災害時の疑似体験を行うとともに、異学年の子供が共に考え協力し合い、自主性や協調性、コミュニケーション力を育てる生きた体験活動の場とする。学生ボランティアや地域ボランティアも共に講座を作り運営することにより、スタッフの学びと育成の場とする。

「こころをほぐそう」



「こころをほぐそう」は、学生ボランティアを中心にレクを取り入れ、緊張した心をほぐしながら人間関係を作ります。

「手作りうちわ」では、和紙を絵具で染め、それをうちわの骨に貼りつけます。個性豊かなうちわの出来上がり！

「食事」はグループで協力して作ります。サバ飯とは空缶にお米を入れて、朝刊1日分の薪で炊飯。みんなカレーをお代わりして食べました。

「組紐作り」経験のある人が初めての人に教える、学習の連鎖に発展。

「古代の組紐作り」



「きもだめし」は中学校校舎で中学生が大がかりなお化け屋敷を作り、中学生や大人がお化けに仮装。小学生には怖くて楽しみな行事です。



「缶切に挑戦」

「小学生」

みんながかつやくできるように声をかけた。全部楽しかったです。カレー作りではみんなで協力しておいしく作されました。みんなの目標を全部守れました。サバ飯は、新聞紙で火をつけ、きれいにたきました。きもだめしでは、先頭で歩いたのでとてもこわかったです。みんなで、ご飯を食べた時はおいしかったし、楽しかったです。来年もまた来たいです。

・自分一人しかできないことを友だちと協力して効率良くやった。寝るときにバスマットだと腰が痛かったです。私は不器用だけど、ウチワづくり、ミサンガ作りはていねいに教えてくれて、私でもきれいに上手に出来たので、うれしかったです。

スタッフ : 素晴らしい晴天に恵まれ、子ども達が少し緊張した面持ちで集まってきました。始まればあっという間に時間が流れ、たくさんのスタッフと子ども達の笑顔に囲まれて過ごすうち、気がつけば自分の緊張も解け、一緒に楽しみながら過ごしていました。子ども達が笑顔で活動するお手伝いが出来た事は、貴重な体験となりました。

成果と課題

成果 : 子ども達は異学年が混ざり合い、缶切や包丁使いなど普段できない体験活動や宿泊体験をし、みんなで元気に楽しく過ごすことで、大きな自信につながった。またスタッフも学生から経験豊かな年配者まで幅広く協力することでスムーズに運営できた。

課題 : 夏の暑さ対策やアレルギー対策、ケガの防止など健康面での配慮が必要。学生ボランティア確保も難しくなっており、ボランティアセンターや大学等への早めの声かけなどが必要。

何でもトライ 田んぼ探検隊実施報告書(習志野市屋敷公民館)

● 2019年度参加13家庭 全4回参加総合計延べ人数 151人 (親子講座)

内、子ども82人 保護者69人 (父28人母41人)

● 協力 ほたる野を守るNORAの会 (里山の自然環境保護を目的とした地元の市民団体)

日時/会場	内容	実施結果
5月11日 (土) 10:00~11:30 実穀本郷公園	親子田植え 	<ul style="list-style-type: none"> ・素足で田んぼの中に入り、土中の温かさを知った。 ・未就園児は保護者が手を添え、幼稚園児と小学生と横並びで親子で一齊に稻を植えた。 (写真 1) ・田植えの後は隣接している公園でお弁当を食べたり、川遊びで異年齢集団の交流を深めることができた。 ・NORAの会指導者から、お米がどうやってできるか、田んぼの仕組み、田植えのやり方の話を聞いた。親も一緒に話を聞くことで家庭に持ち帰り振り返ってもらう。
9月14日 (土) 10:00~11:30 実穀本郷公園	親子稻刈り <ul style="list-style-type: none"> ・稻刈り ・稻を束ねる ・はざ掛け 	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼの泥濘があるところは稻を刈っている間に足が沈み、親子共四苦八苦して尻もちをつき、笑い声が田んぼに響いた。 ・稻架掛けにするために藁で束ねる作業は主に保護者が行い、小さな子どもは保護者と一緒に稻架掛けを行うなど自然に作業を分担できた。 ・稻刈りの途中で、トンボやバッタなど田んぼ周辺の生き物を見つけ、自然散策等も楽しんでいた。
10月6日 (日) 10:00~12:00 実穀本郷公園	田んぼの中で遊ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・稻株を投げる株投げ ・弓矢での的当て ・竹ピストル ・ジャンボ南瓜重さ当て ・バードウォッ칭 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイチャーゲームをしたり、竹や切り取った稻の株など、自然物を使って遊んだ。子どもたちは生き生きと遊んでいた。 ・細い竹の弓矢を引くなど、子どもでは難しい動作を大人が手伝ったり、株投げは大人対決、子ども対決にするなど、子ども中心の遊びではなく、大人も全員が参加し、親子で楽しんでいた。
12月14日 (土) 9:30~13:00 屋敷公民館	お正月準備 <ul style="list-style-type: none"> ・門松、しめ縄作り ・箸置き作り ・もち米試食・感想文 	<ul style="list-style-type: none"> ・NORAの会の準備指導により門松、しめ縄を家族単位で作った。門松や、しめ縄を飾る風習を紹介し、紙バック牛乳で作った箸置きで正月を楽しみに待つ気持ちを伝えた。 ・収穫したもち米を参加者全員で試食して、収穫の喜びを味わった。1年を通して田んぼの作業をしているNORAの会に感謝の気持ちを伝える感想文や絵を自由形式で書いた。 ・前日準備、当日の荷物運び、試食準備、掃除など参加者が自主的に協力し、参加だけの受け身ではない講座となった。皆、笑顔で正月を迎えるようだ。 (写真 2)

※全4回のシリーズを通じ、親子での貴重な体験、交流の場となっている。担当者が、

10年前から継続している事業で地元の親子に好評である。ローカルTVでの特集や3年前から地元の小学校の課外授業としても実施され公民館事業として影響を与えていている。

受講生の感想：とてもよい体験ができた。来年3月で公民館閉館のため、さびしい、今後参加できなくて残念。

4回全てが楽しかった。親子でよい思い出となった等。



袖ヶ浦公民館



和太鼓俱楽部

講座の狙い

和太鼓は日本の伝統芸能です。袖ヶ浦公民館では多くの子どもたちに和太鼓の基礎技術の実習だけではなく基本の礼儀を学ぶ機会を設けたいと思い、公民館主催でこの講座を始めました。



年間13回
の講座

当初は年齢によってクラス分け
していましたが、本番前だと合同で
練習します。（…みんな緊張。）



片付けも礼儀。年
齢も学校も違う
子たちと一緒に。



参加者の声



本番！！



○和太鼓俱楽部に参加しようと思ったきっかけは何ですか？（保護者）

・自分自身が和太鼓が好きだったのもあり、子供にもそのカッコよさを知ってほしく参加しました。また、日頃のストレス発散になればと思いました。

・子供に伝統文化に触れて欲しいと思ったので。

○参加して良かったと思うことは何ですか？

・続けて頑張る大切さと、成果を披露する機会があり、喜びを感じられました。（保護者）

・もっとわだいこくらぶをつづけたかった。たいこをたたくのがおもしろかったです。（小学校1年生）

・本番ではすこしきんちょうしたけれどさいごまでやりきました。（小学校3年生）

成果と課題

○成果

・伝統芸能に触れる機会、技術だけでなく、礼儀作法等を学ぶ機会を与えたことにより、参加当初と開校式での子供達の顔つきが変わってしっかりしてきたこと。

・練習してきた「成果」を多くの知らない人たちの前で発表でき、学校生活の中では味わうことのない、将来的にもいい経験となったこと。

○課題

・少子化により子供数が年々少なくなっているため、受講者の減少が見受けられる。

・小学生が募集対象だったが、今回は幼稚園年中も数名参加した。発表までに間に合ったが、今後、想定している年齢よりも年齢幅が広くなったりとき、今の講座プログラムが維持できるか。

平成31年度「いぶき市民力レッジ」脳トレコース 実施報告書

＜講座のねらい＞

脳トレいやゲームを通じてコミュニケーションを図り、仲間づくりや趣味教養の学習高揚を期待し実施。運営サポートとしてボランティアスタッフを募り、講座終了後の自主サークル活動につなげる。また受講生がオリンピック、パラリンピックにつながれる仕組みづくりとして、「東京2020応援プログラム」に参画し、世界各国の国旗を学習するなど大会に向けた機運醸成に取り組む。

＜講座の概要＞

- ・計算問題、折り紙、音読などの脳トレ
- ・健康体操
- ・チームでコミュニケーションゲーム
- ・オリンピックについての学習
- ※世界の国旗、オリンピックの歴史

＜講座の様子＞



＜参加者の声＞

- ・できてもできなくても、皆と笑えて心豊かな時間を過ごせた。
- ・非常に貴重な時間を過ごせた。
- ・これを機会に、他の教養学習も頑張ろうと思った。
- ・嬉しかった。脳の活性化に気をつけていきたい。
- ・脳トレに興味がわいたので勉強したい。
- ・大変満足でした。年齢に関係なく参加できると思った。
- ・声をあげて笑うのがとっても嬉しかった。色々な方と出会えて、良い刺激になりました。



＜成果と課題＞

日常的に学習する習慣ができたという受講生が多く、講座終了後には受講生を含め約20名の自主サークルを発足し活動している。課題として男性受講生が少ないことがあげられるため、男性へのニーズ調査などを今後していく。

第1回ちば講座アワード

自由研究を応援！夏休みこども向け体験教室「忠敬の地図作りにプチ・チャレ！」実施報告書

香取市生涯学習課伊能忠敬記念館

日 時：令和元年8月4日、11日、12日、18日 10:30～12:00

会 場：伊能忠敬記念館第2展示室

参加者：市内～県外の小学校4年生～中学校2年生 計39人

★講座のねらい

忠敬の測量方法を学習し、身近な道具を使って実際に測量を経験することによって、市内外の児童・生徒に伊能忠敬への興味・関心を深めてもらうとともに、夏休みの宿題や自由研究等の参考となる学習機会を提供する。

測量体験①	測量体験②	製図体験
 <p>模型方位盤を使って、北から梵天（目標）への角度を測る。</p>	 <p>巻尺で長さを測り、記録する。</p>	 <p>測量結果をまとめ、50分の1の縮尺で製図する。</p>

★参加者の声(抜粋)

「地図作りについて体験できて、とても楽しかったです」（小4・男）

「正確に地図を作るのは難しいと思った。途中で少しずれてしまうと最後ずれてしまう」（小5・女）

「この部屋だけでもはかるのがとても大変で忠敬さんはすごく大変だったんだなあと思いました」（小6・女）

「曲がるたびに角度を測るので時間がかかると思った。17年毎日やったのはすごい（中2・男）

★成果と課題

全体では製図体験についての感想が最も多く、分度器の使い方など作業に苦戦し、「大変さ、難しさ」を実感したようだ。それだけに、測量したことが製図してはじめて地図として目に見える成果となり、「楽しさ、面白さ」「達成感、うれしさ」、あるいは誤差が出たことに対する「悔しさ」を感じたようだ。また、この体験から忠敬の全国測量の様子を想像した時に驚きや感心といった感想に繋がっている。

忠敬についての情報は様々な媒体から入手できるが、測量を体験する機会は貴重である。原理的には単純であり、小学生にも理解できるものだ。しかし、実際にやってみるとそう簡単ではなく、測量技術その他にもチームワークなど様々な要素が必要だとわかる。この体験を通じて、忠敬に限らず地図、測量、算数、歴史などにも興味を広げるきっかけを提供することができた。

課題として、初対面で共同作業をするのに多少戸惑いがあるため、短時間でも心理的距離が縮まる工夫ができれば、より楽しく盛り上がれると考える。



講座イベント名	中学生里山整備体験講座
主催者（市町村）	里山むつみ隊（八千代市）
講座のねらい	中学生に対して、私たち隊員と同じ里山整備体験してもらうことにより、里山整備の意義と自然への親しみと楽しさを養ってもらうこと。
実施月日	令和元年12月14日（土）
参加人数	生徒36名、先生6名、スタッフ13名 合計55名
講座の概要	<p>平成25年から毎年連続、今回で7回目の実施である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義： 里山むつみ隊の紹介と里山整備の意義（20分ほど） 2. 作業（2時間ほど） <ul style="list-style-type: none"> (1) 台風による倒木を木材として利用するため、森林内の作業場まで150mほど移動、1本の丸太を生徒4人で運ぶ共同作業である。リズムを合わせないと担げない。 (2) 落下した枝を収集し（長い枝はノコギリで切る）、リヤカーで集積場まで運ぶ。 (3) 落葉を収集し、以前の活動で玉切り丸太を生徒が組立てたバイオネスト（カブトムシ等の幼虫の生育場所）に入れ込む。 3. 森林内を案内（30分ほど） 4. 食事とお遊び <ul style="list-style-type: none"> 弁当持参であるが、大きな鍋の豚汁と焼き芋で昼食、昼食後はヤマザクラに吊るした1本のロープでお遊び。 5. 合唱クラブの生徒によるお礼のクリスマスソングなどの合唱
参加者の声	<p>代表的な声：</p> <ul style="list-style-type: none"> *作業は少しきつかったが、楽しかった。 *里山むつみ隊が森を守るために頑張っているのがわかった。 *食事が美味しかった。 *「ターザンごっこ」がおもしろかった。
成果と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成果 <ul style="list-style-type: none"> 作業すると森がきれいになることや大きな丸太も仲間と協力すれば運べることなど、達成感を感じとてもらったと思う。また、森の中で体を動かした後のおいしい食事や遊びが楽しかったことは生涯記憶に残ると確信している。 2. 課題 <ul style="list-style-type: none"> マンネリ化しないよう作業内容のレパートリーを準備しておく必要がある。

<講座の様子>



丸太の移動



枯れ枝の収集



昼食の後はターザンごっこ

令和元年度八重原子ども自然体験教室(君津市八重原公民館)

青少年相談員と共に催で行う本事業は、子ども達の自然に対する発見や気づきを第一に尊重し、一方的な価値観で自然保护の意識を押し付けるのではなく、自然と共に生きていること（共生）が自覚できるような、子ども自身の自然観が育つプログラムとしています。

①開校式&森の探検



活動を支える青少年相談員さんと年間講師の直井洋司さん。普段はできない体験を重ね、子どもたちは成長していきます。

②工作（里山遊びから予定を変更）



雨天の時は、室内でネイチャークラフトを楽しめます。大人たちの見守りのもと、小刀やのこぎりにも挑戦。それぞれ個性的な作品を作り上げます。



③草木染めにチャレンジ

④どんぐりを食べよう！



今年は藍の生葉染めにチャレンジ！毎年、少しずつ新しい試みを入れています。

⑤巨大パチンコ作り！



自分で拾ったどんぐりを炒ったり、クッキーやホットケーキにしたりして食べました。半日かけて作った味は格別！！アッという間に完食！

⑥生き物を実物大で描こう



生き物を実物大で描いて、その大きさを味わいます。今年はクジラ、ユキヒヨウ、スマロドンを描きました。

今年度はまだあと2回残っています。炭焼きと廃油石鹼づくり。1年間をとおして、子どもの様々な力が鍛えられます。

初の試み。巨大パチンコ（ビーベル転がし）づくり。みんなとっても集中していました。

実施報告書

講 座 名	多古っ子カレッジ	
主 催 者	多古町教育委員会	
講座のねらい	『多古の子・町の子・みんなの子』を掲げ、「心の教育」の推進、「地域・町づくり」に参画するような環境の整備、関係機関や団体との連携にたった「様々な体験活動」の実現という3つの視点にたち、広く地域全体で子どもの「生きる力」を育むことを目的とする。	
対 象 者	町内小学4～6年生 参加者 32名	
講 座	回数・期日	内 容
	第1回・5／12	・開講式・ドローン操縦研修会見学・オリエンテーション ・レクリエーション 目的を確認するとともに、参加意識の向上と、班の協力体制をつくることができた。
	第2回・6／2	・花苗植え 多古高校の職員と生徒の協力で、体験と環境美化を行う。 ・スポーツ交流体験①（スナックゴルフ） 関心を高め技能の向上を図ることができた。また、班内の交流を深めることができた。
	第3回・7／14	・ガラス細工体験 ガラスへの知識を深め、自分の作品を作り上げた。
	第4回・9／1	・パナソニックセンター東京見学 理数に関する体験と知識を深めた。 ・虹の下水道館見学 町にない下水道について、理解を深めた。
	第5回・10／13	・墨田区の工場見学 ・児童館との交流 ※台風のため中止
	第6回・11／16	・囲碁教室 町文化協会囲碁部の協力で、基本を理解し、囲碁の面白さを感じながら対戦を楽しむことができた。 ・スポーツ交流体験②（ユニカール） 町スポーツ推進委員の指導により、基本技術の習得と班で協力してゲームを楽しんだ。
	第7回・12／7	・将棋教室 町文化協会将棋部の協力で、基本を理解し、将棋の奥深さを感じながら対戦することができた。 ・創作活動（クリスマスリース） 楽しく、自分だけの作品を作った。
	第8回・1／12	・調理実習 町健康福祉課管理栄養士、保健推進委員の指導 ・スポーツ交流体験③（ボッチャ） 町スポーツ推進委員の指導
	第9回・2／16	・調理実習（うどん作り） 蕎麦の会の協力 ・閉講式
感 想	<ul style="list-style-type: none"> 普段は、行けない場所やいろいろな人の交流などがとても勉強になりました。 学校でできないことが、たくさんでき、どれもすごく貴重な体験でした。 初めての体験や勉強ができたり他の学校の友だちもつくることができたり、楽しかった。 これからも日本の楽しい伝統に触れあって楽しみたい。 ※昨年度の受講生感想から 	
成 果 と 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○他校・異学年との交流により、人間関係を深めることができた。 ○学校では、体験できない内容を講座として展開することによって、貴重な体験ができた。 ○町内の人材を活用することで、町の理解や町全体で育てられていることを体感できた。 ●学校行事や町行事等により、期日の設定が難しい。 ●受講生の実態等を考慮し、講座の内容について検討していく。 ●町内各機関、団体との連携・協力体制をさらに充実させていく。 	
活動の様子	囲碁教室 	ユニカール 
	花苗植え 	リース作り 

第1回ちば講座アワード

「ユースカルチャー支援事業 学生のための舞台衣装制作講座」 実施報告書

■講座のねらい

青少年が親しみを持てる「舞台衣装」を題材に取り上げ、実践的な講座を第一線で活躍しているクリエーター指導のもと開催し、舞台芸術を身近に感じてもらい、文化芸術の裾野の拡大と青少年達による協働作業を通じて、協調性・創造性・感性を育んでもらい、将来の文化芸術の担い手の育成も図ることをねらいに開催しました。

■講座の様子

9/15 オリエンテーション・グループ分け	9/16 グループワーク・デザイン制作講習
9/22 グループワーク・デザイン制作講習	10/5 グループワーク・舞台用ヘアメイク講習
10/14 グループワーク	10/19 グループワーク・デザイン講評会
10/20 ライブスタッフ体験会	



オリエンテーション



グループワーク①



グループワーク②



舞台用ヘアメイク講義



デザイン講習



ステージ衣装贈呈

■参加者の声

- ・衣装だけではなく、デザイン画を描いたりして様々なことを経験でき、他の人の意見を聞いて刺激的だった。学校と重なってしまい全日程は参加できなかつたので、もう少し参加したかった。
- ・グループごとだったので、色々な子の話しを詳しく聞けた。同世代の似た目標を持った子が集まる機会は中々無いと思ったので、楽しかった。
- ・衣装製作だけではなく、ヘアメイクも学べたので、とても満足しています。デザインの評価もしっかり聞いて、改善点を見つけることができたので、もっと頑張ろうと思いました。
- ・毎回行くのが楽しみで、新しい友達ができるて参加して良かったなと思いました!!
- ・高3という進路決定をするタイミングで、このイベントに参加させていただけて、とても嬉しかったです。貴重な経験をありがとうございました。

■成果と課題

6 グループに分かれ、10月20日のライブのアーティストが着用するステージ衣装とアクセサリー等の小道具の制作を目指し開催しました。グループワークという協働作業を重ね、青少年達は他者のもつ能力や価値観を認め合うことができ、活発な意見交換等もできるようになり一定の成果が得ることができたと思われます。また、当該分野への理解を深められ、多くの再度の開催を望む声をもらうことができました。今回は、回数が限られていることから、予め用意したデザインに沿って制作を行ったが、次回以降は青少年達にデザイン制作も行ってもらい、より深く舞台芸術を体験できるように取り組む必要を感じました。

行事名	:夏休み空港見学と外国コイン仕分けボランティア講座
開催日時	:2019年8月23日(金)14:00~17:00
開催場所	:NAA本社ビル 1階情報コーナー
参加人数	:一般参加者 大人:16名、 子ども:19名、 スタッフ:7名、成田空港株式会社:4名
講座の狙い	:夏休みに世界に向けての玄関口となる成田空港を見学し、各国への関心を高める。世界の現状について学ぶと同時に、ユニセフ活動についても学ぶ。外国コインの仕分けを通して自分たちができるボランティア活動に参加していただく。
講座の様子	:成田国際空港株式会社様の協力で開催。ランプコントロールタワーの見学ではJALエアバス350はじめ数多くの飛行機を見学。成田空港から100以上の都市に飛行機が飛んでいる話を聞きました。後半は日本ユニセフ協会長谷部誠大使のワクチンの旅 DVD を鑑賞し、実施にワクチンボックスを紹介しました。そして外国コインの流れの説明の後、参加者みんなで外国コイン仕分け体験。参加者の熱心な仕分けのおかげで、米ドルだけで8,000円以上の仕分けをすることができました。また来年も企画出来ればと思います。

参加者の声 (当日のアンケートより)

- 初めて見る外国のお金にびっくりです。エチオピアの子ども達が本当に助けを待っているのがわかりました。ユニセフの活動も大変ですが、世界のためにあるのですね。
- コインの仕分けは最初は難しかった。けれど、どんどんやつていくうちにどここのコインかわかつてきて楽しかったです。高い所に行けて良かった。景色も良かった。
- コインの仕分けが楽しかったです。色々な世界のコインを知ることができて、覚えてきたころに終わってしまって、残念でした。ランプコントロールタワーからの景色は気持ちがよかったです。
- コイン仕分け初めての体験でよかったです。時々行うなら良いですが、日々行うと大変だと思います。年に1度くらいたくさん的人が手伝えるようになると良いと思いました。
- コインの仕分け思った以上に大変でした。大変な思いもやってこそわかる事なので、体験できてよかったです。
- 空港見学、コイン仕分けすべてが初めての体験で盛り沢山学びました。とても良いボランティア体験でした。ありがとうございました。
- 空港見学は普段は入れない所まで案内していただき、夏休みのいい体験ができました。外国コインの仕分けは、親子で夢中になって取り組めました。いろんな事を体験できてよかったです。
- ふだんはできないことなどが、いろいろやれてすごく楽しかったです。
- コントロールタワーから見る景色は、珍しく楽しかったです。説明も分かりやすく勉強になりました。コイン仕分けも楽しかったです。色々な国のコインを見ながら、世界に興味が持てたと思います。
- 今日のコインで楽しかったし、すごく勉強になった!!でも飛行機の勉強になった。
- コインの仕分けは思ったより難しくて、達成感がありました。ユニセフの活動の大変さを知ることができました。すごく楽しかったです。ユニセフに募金したいと思いました。ありがとうございました。

成果と課題:企画を通して、外国のこと、ユニセフの活動についての理解を深めていただくことができた。

一人一人ができるボランティア体験の一つとして、今後多くの方に参加いただけるようにしていきたい。



報告者 千葉県ユニセフ協会 福本朋子

令和元年度おすすめ講座実施報告書 県立中央公民館

1 講 座 名 天文教室
2 開催日時 令和元年 7月 27日（土）・8月 3日（土）・8月 10日（土） 11月 2日（土）・12月 14日（土） 午後 7時～8時45分 ※中止4回は除く
3 開催場所 県立中央公民館 天体観測室（3階）
4 参 加 者 【講 師】田辺義央氏 【来館者】延べ60名
5 観測対象 月・木星・金星・土星・季節の星座等
6 個別記録 ※年間で10回開催予定 5月 18日（土）中止 6月 8日（土）中止 <u>7月 27日（土）開催 木星・土星観測 14名参加</u> <u>8月 3日（土）開催 木星・土星観測 7名参加</u> <u>8月 10日（土）開催 月観測 22名参加</u> 9月 21日（土）中止 10月 12日（土）中止 <u>11月 2日（土）開催 月・秋星座観測 11名参加</u> <u>12月 14日（土）開催 月観測 6名参加</u> <u>1月 25日（土）開催予定 金星観測</u>
7 講座のねらい 自然科学に興味をもつ機会の提供、宇宙工学・技術への関心を目的とする。 講師による天体望遠鏡の観測方法の説明を受け、天体望遠鏡（30センチ）により、月・惑星・星座の観測を行う。
8 参加者の声 授業で勉強した星座・月等に興味を持って、保護者と一緒に参加し、月を観測できてうれしかった。（小学生）
9 成果と課題 開催場所である中央公民館が、第1～第3土曜日は午後9時まで開館していることから、基本的にこの日程で開催している。 夏休み期間には、こども達が参加できるよう3週連続で開催した。 悪天候により開催ができないことが多いので、室内でプロジェクターにより星座図を投影し、講師による説明会を実施したい。

講座名 「地図と TRIP」～柏の魅力を探ろう～

パレット柏

1 目的

これから市民活動を始めたい、参加したいという人のための入門講座である。講座に参加される皆さんで、3つの年代の地図を比較分析しながら、街の進化のポイントを自分たちで探し、実際に地図を持って歩いて観察する。自らが主体となって進める市民交流講座を目指す。

2 講座の具体的な内容

昭和5年、昭和47年、平成17年発行の国土地理院発行2万5000分の1地形図を利用し、地形図から柏市内の地形と土地利用の変化を比較、観察し、地図で得た情報を全員で共有した。地形図で把握できた特色ある地域を訪ね、土地の変化を確かめる。参加者が主体となり、意見や考えを出し合い、調整を図っていき、フィールドワークの楽しさを他の人に伝えられるようにしていく。

3 実施報告

9月14日(土) 受講式、概要説明(オープンスペースにて実施)

15名募集で40歳から82歳までの16名の参加者があった。市民講座を始めようとする方々のはじめの一歩として、講師をお願いせず、自分たちが主体になって活動を始めていくことを共有した。

10月19日(土) 地図を知る・地図に触れる(会議室にて実施)

3枚の地図を手に読み方から始める。台風19号の直後ということもあり、等高線で水害の痕を追い、ハザードマップでも確認する。参加者の自宅の地域周辺を読み、身近な水害対策を地図で読める行政的な対応を確認し、年代の違う地図で確認した。地図を読み声に出して人に聞くことで、多くの情報が得られることを理解していただいた。クイズ形式で読図を行い、楽しみながら進めていくことが出来た。

11月23日(土) 街を歩くwith地図(ウラカシ周辺実施)

読図の復習を行ったのち、参加者から新たな情報が多く寄せられたので紹介しするとともに、若者が中心となって活性化の取り組んだ通称ウラカシ地区を散策した。刺繡アーティストの吉岡さんの店「縫」と、絵本の店「Huckleberry Books」の奥山さんにお店のことや、地域の状況などを伺った。ウラカシを愛するお二人の熱い思いを感じるとともに、街の景観から時代の流れを感じ、地図を通してその実際を学ぶことが出来た。

今後の予定

12月28日(土) 柏のイメージに触れるwith地図(日立台周辺を予定)

1月18日(土) 歴史を歩くwith地図(柏たなかから花野井周辺を予定)

2月22日(土) 柏の進化を知るwith地図(柏の葉旧通信基地周辺を予定)

3月21日(土) 柏駅周辺の地図を歩きながら描く(予定)



読図の学習



地図の読み取り



ウラカシの刺繡店「縫」でフィールドワーク



4 成果と課題

- ①成果
 - ・まだ、講座の途中であるが、参加者が主体となって、学んだことや得た知識を声を出して、共有し合うことで、無理がなく、リラックスしながら、互いに学び、認め合う講座となっている。
 - ・主催者は会の流れの方向性をコーディネートし、参加者全体をまとめ、繋げることがサポートであると考え進めている。
 - ・地図が読めない年配の方も、周りの若い人の丁寧な助言に耳を傾け、生き生きと参加できている。
 - ・参加者が互いに持っている知識を人に伝える場として、周りが協力してわからないことをわかるようになる会としての最初の狙いは出来ていると思われる。
 - ・地図を読むたび、ここを見たい、ここを歩きたいという要望が増えてきており積極的に口にする人が増えてきた。
- ②課題
 - ・コーディネーターが会の流れをうまくリードしているが、コーディネーターに頼るところが多く、全体としてはそこに頼りがちである。
 - ・地図の初心者、市民活動を始めて参加される人の初心者講座であるが、実際には多くの方が活動している人もいて、どこに焦点を当てるか難しいところである。コーディネーターとして初期の方向性を変えなければならぬ点も多々あった。

5 参加者の声

- ・全体としての正規のアンケートは最終日に取る予定であり、まだ実施できていないが、2名の方が事務局へ直接、「とても楽しい」とわざわざ伝えに来ていただいたり、他に2名の方がご自身の持っている資料や、必要な資料を収集されてたり、積極的に参加していく姿勢がみなさん一致してみられる。

Let's discover!
世界を感じた

千葉市少年自然の家 主催事業

グローバルキャンプ

昨年からスタートしたグローバルキャンプは、単に英語を学ぶのではなく、外国人ゲストや仲間たちとの交流を通じて、様々な国の文化や言語に触れ、日本を改めて考えることを目的としたキャンプです。子どもたちには、「日本の良いところ各国の良いところ、同じところ違うところを発見しよう！」と呼びかけながら、キャンプを行いました。

共催：一般財団法人 千葉YMCA

キャンプ
概要

日 程：8月19日～21日 体験活動[59]
場 所：千葉市少年自然の家
参加者：小学校1～6年生 41名

	8/19 (月)	8/20 (火)	8/21 (水)
午前		集合・入所式	異文化交流アクティビティ(遊び編)
午後	館内オリエンテーリング &クラフト	異文化交流アクティビティ(文化編)	室内レク退所式・解散
夜	ナイトハント	キャンプファイアー	



入所式



オリエンテーリング

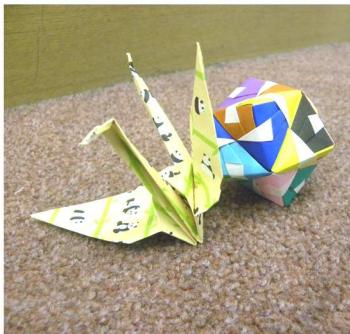


野外炊飯

みんな揃っての入所式。初めて出会う外国人ゲストや友だちに少し緊張気味の子どもたちですが、このあとすぐ仲良く活動を開始することができました。

館内オリエンテーリングでは、色々な場所にあるポスターを見つけ、ミッションをクリアしながら絆を深めました。

グループのみんなで役割分担をして、キーマ風カレーライス作りにチャレンジ。協力して作ったカレーライスはVery Good！



異文化交流



メインプログラムの異文化交流。「文化編」では外国人ゲストと子どもたちがそれぞれ持ち寄った「自国の自慢のモノ」を紹介しました。外国人ゲストの国の文化に子どもたちは興味津々。子どもたちも折り紙や門松など、日本の文化を紹介しました。「アクティビティ編」では、外国のジャンケン・台湾の鬼ごっこ・カバディやハンカチ落としの外国ルール版など、色々な国の遊びを体験しました。

参加者の声
保護者

外国人ゲストからおしえてもらつたいろいろな遊びが楽しかったです。ナイトハントで外国人ゲストをさがす時、英語で質問してみたら、もっと英語が好きになりました。

最初はあまりしゃべつたり仲間に入れたりできなかつたけど、このキャンプのおかげであまり知らない人と話せるようになりました。

最初はゲストや同じ部屋の人と仲良くなれるか心配だつたけど、リーダーも同じ部屋の人もゲストもみんな声をかけてきてくれて、とても仲良くなれました。

知らない人とも話すことができるようになりました。外国人とのコミュニケーションでは言葉がわからなくても身振り手振りや簡単な絵などで理解できたようで有意義なプログラムだと思います。

外国のことを調べて家族に教えてくれました。いろいろな国の人会って視野が広がつたようです。

外国人ゲストとゲームなどを通して英語で話す機会があったようで「英語が話せるっていいね、もっと話せるようになりたい」と言っていて、親としても参加させて良かったと思います。